

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

## 14. 泌尿器、生殖器の疾患 (更年期障害を含む)

### 文献

太田博明. 更年期障害治療における漢方療法とホルモン補充療法の位置付け. 産婦人科漢方研究のあゆみ 2001; 18: 21-9. 医中誌 Web ID: 2002170744

### 1. 目的

更年期障害の治療法として HRT と漢方治療の比較評価

### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

### 3. セッティング

実施場所に関する記載無し (著者は東京女子医科大学産婦人科教室)

### 4. 参加者

閉経後もしくは卵巣摘出後患者で更年期症状をもつ 96 名

### 5. 介入

Arm 1: 漢方療法 46 名 (桂枝茯苓丸 19 名、加味逍遙散 11 名、牛車腎気丸 8 名、当帰芍薬散 2 名、桃核承気湯 2 名、帰脾湯 2 名、女神散 2 名)

Arm 2: HRT (結合型エストロゲン 0.625mg および 酢酸メドロキシプロゲステロン 2.5mg ないし 5mg) 50 名

原著に詳細の記載なし

### 6. 主なアウトカム評価項目

慶應式中高年健康維持外来調査表のスコアを用い、投与開始前、投与開始 1 ヶ月後、6 ヶ月後、12 ヶ月後の調査結果を比較した。0- 10 点を軽症、10- 20 点を中等度、20- 30 点を重症とし、重症→中等度、中等度→軽症、軽症におけるスコア減少が 2/3 の場合に改善と評価した。

### 7. 主な結果

HRT により、血管運動神経症状、神経質、腰背痛、ゆううつ、不眠、頭痛の 6 症状は 1 ヶ月で改善した。漢方治療では、1 ヶ月で改善した症状はなく、血管運動神経症状、倦怠感、腰背痛、神経質の 4 症状は 6 ヶ月で改善を認めた。なお、腰背痛に関しては牛車腎気丸のみ有効だった。

### 8. 結論

のぼせ、ほてり、発汗、抑鬱、不眠については、HRT の方が治療効果において優れており、倦怠感、冷えについては、漢方療法の方が効果において優れている。

### 9. 漢方的考察

今回の研究では、桂枝茯苓丸群が 19 名、加味逍遙散群が 11 名、当帰芍薬散が 2 名、となったのは虚証者が少なかったためと考察。

### 10. 論文中の安全性評価

記載なし

### 11. Abstractor のコメント

漢方薬と HRT の特性を概略的に説明している論文である。漢方治療を行う上では、症状を考慮しながら、より有効な分野で投与するように促している。よりきめ細かなデザインによる個々の漢方薬に対する研究の続報を待ちたい。

### 12. Abstractor and date

中田英之 2008.4.1, 2010.6.1, 2013.12.31